

アンネ フランク パネル展 開催報告書

開催地： 青山学院大学 青山キャンパス「青山際」

学生代表：上村星名 （担当教員：勝又恵理子、岡田真唯、栗田智子）

Home Page： <https://www.aoyama.ac.jp>

報告者・メールアドレス： 金田茉優・mayulgm1224@icloud.com

開催期間： 2023/11/3～2023/11/5

期間中 生徒・訪問者 合計数： 421名

同時共催事項：資料配布、高木洋子氏の「満州引揚難民体験がつなぐ今」

報告者まとめ

短い期間の開催だったが、予想以上の多くの人々が来場してくれた。来てくれた人の中には、アンネ・フランクについて知らなかった人もおり、このパネル展示をきっかけに興味を持ってくれた人も多かった。また、年配の方の中には、現在発生しているウクライナ戦争やガザ問題、台湾有事についても切り込んで色々話してくれる人もおり、私たち学生側も勉強になった。さらに、子連れの親御さんからは、「こういった場があると子供に話しやすいから嬉しい」と言ってくださり、戦争やホロコーストの悲惨さを後世に継承していくという重要な役割を担うことができた展示会だったと思う。

生徒・訪問者の感想

- アンネ・フランクについて全員知っているものだと思っていたけれど、知らない人が一定数いた。
アンネ・フランク誰だって聞いてきた方には、アンネの日記の方と説明したら全員が、あ、その人

ねって反応していた。ロシアウクライナ、イスラエルガザ、中国台湾について聞いてくる方が多かった（わたしの体験だと全員50歳上の男性）。不真面目そうな人も長い時間かけてじっくり見てくれた。入り口から出て行く人が多かった。どうやって回るか分からない人が多かった。老若男女、国籍問わずきてくれた。

- 子連れの方が「こういった場があると子供に話しやすいから嬉しい」と言ってくれたのが印象的だった。また別の方ともお話していて、前例を知ることの重要性和知らないことの恐ろしさを学んだ。草の根レベルでも負の遺産をより良い未来への架け橋に出来れば誇り高いなと感じた。
- 思ったよりも多くの方が展示を見に来てくださったことが嬉しかった。また、現在世界中で戦争が問題となっているが、実際に来場者と話して、展示に来てくださった人の多くが、戦争や平和に関心がある人だと感じた。展示の感想も、様々な年代の人からいただけて、興味深かった。
- 想像よりもたくさんの方が来場してくれて嬉しかった。自分もパネルを見て勉強させてもらった。
- 先日、イスラエルとガザ地区の悲しいニュースがありますが、なぜ同じことを繰り返してしまうのかと思いました。歴史に学び同じ悲劇（人を人種や信念、信条で区別・差別する）ことのない未来になって欲しいです。若い人には戦争や、他の人を寛容に受け入れないで起こる差別のよくない歴史を学んでほしいです。展示ありがとうございました。
- 平和について考えさせられました。
- WW1もWW2も皆「おかしいな」と思いつつも流れ落ちる石が止められなくなってしまうように世界大戦に突入したといえます。「WW3はウクライナ侵略とハマスのイスラエル攻撃によって始まった」と後世に語られるようにならないか心配です。
- お久しぶりです。元iEARNで活動していた鈴木です。GOMI on EARTHから始まって、今はこのような形で歴史を振り返る活動として引き継がれていることを知って、感動しました。展示もパンフレットもとても立派に作られていて、素晴らしかったです。今後の活動も応援しています！
- とても意味のある展示ですね。ウクライナやガザ、、平和は尊い。
- ちびっ子だから難しいけど、罪がないのに死はかわいそう。
- 人が人として扱われない世界。日本で平和にぬくぬくと暮らしている私たちには想像もできないことが、今、現実でも起きている。少しでも力になれることをしたいと思った。

- 自分が今いる平和だと思っている世界から飛び出し、もっと外に目を向け、知ることこそがいつでも今を生きる私たちがすべきことだと感じる。私ももっと勇気を出して行動したい。ありがとうございました。
 - 子どもたちの活字離れに伴って、アンネの日記の認知度も下がっている気がします。このような展示がもっと多くの場所に広がりますように、、、。
 - 図書館で、アンネの本を借りて読もうと思います。
 - WW2を経験していない世代にホロコーストの歴史が起こりうる人間の奥底の残虐性が認知されるべきだ。より広く、よりフラットな情報を。
 - 貴重な資料が多くて見応えがありました！
 - 同じ人間として絶対に忘れてはいけない、そして今後も伝えていかなければならない、目を背けられない事実を改めて学ばせてもらいました。ありがとうございました。
 - 我々はホロコーストかWW2のような惨劇から何を学んだのだろうか。学んだところで活かさないのなら意味はない？しかし、行動それ自体が自らに意味を持たせるのだろうかと思った。満州の資料もあとで読む。ありがとうございました。
 - このようなことが実際にあったんだと感ずるといふより、怒り、憤り、悲しみが回り知れませぬ。決して起こしてはいけないことと同時に忘れてはいけないとすることを身に沁みて感ずた時間でした。ありがとうございました。
-